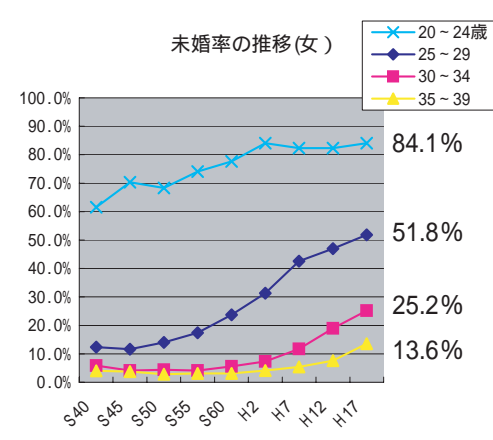
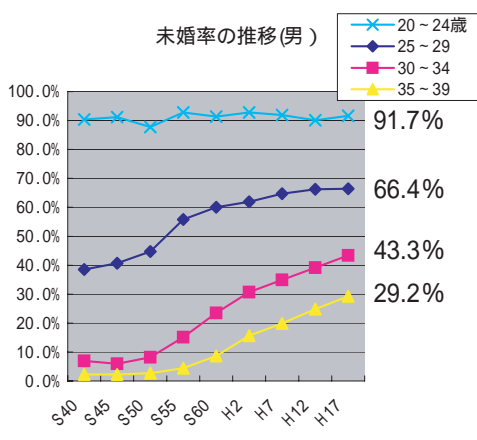


特集 子育て支援



に、税収の低下により、行政サービスも低下することが予測されます。また地域では、若者を中心に少なくなり、伝統的な祭りや、地域自治そのものの維持が困難になってしまつても心配されます。



なぜ人口が減っているのか

人口減少の理由は、子どもの生まれる数よりも死亡数が増えていること、就職や学業、結婚などの理由による市外への転出の2つが挙げられます。さらに子どもの数が少なくなっている社会的な背景は、次の3点が挙げられます。

- 晩婚化・非婚化の進行（結婚しない、婚期の遅れ） 恵那市の未婚率の推移（上図）
- 夫婦の出生力の低下（子どもの数の減少）
- 若い世代の市外転出（結婚期の若者の転出）

少子化対策のための具体的な取り組み

市ではどのような取り組みをしているのでしょうか。下表に挙げた事業は主なもので、このほかにもたくさんのお事業があります。現在市では、少子化対策の視点から市の事業を再点検し、施策を再構築するよう、恵那市少子化対策指針の策定作業を行っています。少子高齢化が進む中で、家庭、地域、企業、行政がどのような取り組みを展開したらいいのか。課題と取り組みの提案を「健康・医療」「地域

市の少子化対策事業（主なもの）

事業名	事業の概要
経済負担の軽減	
乳幼児医療費助成	小学校卒業までの医療費を無料(子どもが3人以上の場合、所得制限なし)
不妊治療費助成	特定不妊治療費に対する助成
子育て支援	
子育て支援センターの運営	市内6保育園で入園前の児童の子育て支援
つどいの広場事業	乳幼児の親子の居場所の提供 1カ所開設
発達障害相談事業	発達障害の相談に専門員を配置しての指導助言
ブックスタート事業	新生児への本の配布と読み聞かせのきっかけ作り
母子保健指導事業	母子手帳の交付、パパママ学級、新生児訪問、定期健診など
乳幼児健康診査事業	3カ月、1歳6カ月、3歳児の健康診査など
仕事と家庭の両立支援	
ファミリーサポートセンターの運営	市内2箇所登録制による保育支援
放課後児童健全育成事業	放課後の児童育成(学童保育)6カ所開設
若者の自立支援	
キャリア教育実践プロジェクト	中学2年生の企業体験活動
結婚支援	
恵那ことぶき結婚相談所の運営	相談員12人による定期相談のほかイベントを実施
地域づくり	
企業誘致対策	企業誘致活動のほか、企業奨励制度の充実

市の少子化の状況

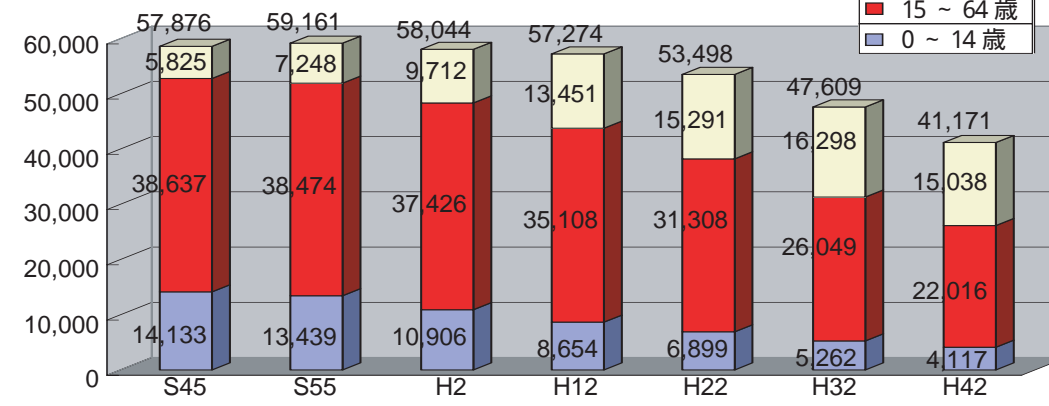
恵那市も急速に少子化が進んでいます。市では少子化対策の一つとして、子育て支援に力を入れています。仕事に子育てにと、毎日頑張っているお父さんお母さん、子どもを育てやすい環境とはどういふことかと思えます。市の少子化の状況と取り組みから、子どもを育てやすい環境をつくるために何が必要なのか、そして私たちができることは何なのかを考えます。

皆さんの身近に赤ちゃんはいますか。昨年1年間に生まれた子どもの数は市全体で409人でした。平成8年の567人比べて、この10年で子どもの出生数は約3割減っています。この状況が続くとどうなるのでしょうか。恵那市の将来人口を推計してみました。(下図)

出生率を現在のままとした場合、平成17年に5万5千761人の人口は、25年後の平成42年には、4万1千171人にまで減少すると推計されます。

このような人口減少に伴い、働き手が少なくなることや、消費者が少なくなることによる経済規模の縮小や、国民健康保険、介護保険制度などの制度維持が困難になるなどの問題が出てきます。さら

総人口の推移と推計



平成12年までは国勢調査のデータ。平成22年以降は、国立社会保障人口問題研究所の「小地域簡易将来推計人口システム」による推計。
1人の女性が一生に産む子どもの数(合計特殊出生率)が現状で推移したと仮定

年度中に策定する予定で進めています。

主な少子化対策事業の紹介



子育て支援センターの運営

子育て支援センターでは、0歳から未就園児を対象に親と子のふれあいの場「子育て広場」を開催しています。市内のどこの支援センターの活動にも参加できます。子育ての悩みや相談にも応じますので、ぜひ遊びに出掛けてください。詳細は、本紙15日号の子育てのひろばをご覧ください。(写真は山岡子育て支援センターの皆さん)



つどいの広場事業

乳幼児を持つ親が、子育ての不安や孤立感を解消できるように、気軽に集い、交流し合う場です。現在は「みんなで子育てドロップス」が運営しています。子育てのちょっと先輩ママたちがスタッフとなり、皆さんを笑顔でお迎えしてくれます。

☐問い合わせ 少子化対策推進室
☎ 26-2111 (内線 228・229)



ブックスタート事業

ブックスタートは、絵本を通して赤ちゃんとお母さんがゆっくり向き合い、心の触れ合うひとときを持つきっかけをつくってもらおうと実施しています。7カ月児教室に参加した全ての赤ちゃんとお母さんの方に絵本をプレゼントしています。

☐問い合わせ 社会教育課
☎ 43-2112 (内線 231・233)



放課後児童健全育成事業 (学童保育)

学童保育は、両親の就労などの理由により、昼間、家を留守にする家庭の小学生を対象とした放課後の生活の場です。現在、市内には、6カ所の学童保育所があります。(写真は明智学童クラブの皆さん)

☐問い合わせ 子育て支援課
☎ 26-2111 (内線 151)

子どもを育てやすい町を考える

楽しい子育てを

恵那市の子どもを増やすことは、とても大きな課題です。この課題解決のために、市は「子どもを育てやすい町」になる必要があります。

今回、つどいの広場、子育て支援センターへ出掛けて印象に残ったことがあります。子どもたちはもちろん、お母さんたちも楽しそうだったこと。

最近、児童虐待のニュースをよく耳にします。とても心が痛み、「なぜ」という思いがします。しかし、毎日、仕事や子育てに頑張っているお父さんやお母さんにとって、忙しい日常の中で楽しいはずの子育てが、かえってストレスになってしまっていることではないでしょうか。

そんなときは、つどいの広場や子育て支援センターへ出掛けてみてください。そこでの会話は、子どもとの会話とは違う大人同士の会話があり、同じ悩みや思いを共感できる友達との出会いがあります。家の中の孤独に耐える子育てではなく、みんなであいわいわいおしゃべりのできる子育て、これが楽しい子育てにつながる



がるはずですが、「子どもを育てやすい町」とは「子育てが楽しくできる町」ではないでしょうか。誰もが子育てを楽しくできれば、自然と子ども数は増えていくはず。

地域でできる子育て

子育て支援には、多くの手が必要です。地域で子どもたちを見守ってくれる手。子どもたちに優しく声をかけてくれる手。そして子どもたちをしかつてくれる手。地域だからできる子育て支援がきつとあるはず。子ども見守り活動、学童保育事業など、地域での子育て支援活動が活発に展開されることが、安心して子育てができる町につながります。親にとって子どもは宝。同じように地域にとっても子どもは宝になってほしいと願います。

子どもか仕事か

働く現場では、女性が子育てと仕事の選択を迫られることは少なくありません。子どもと仕事、同じくがんばるのには、そもそもおもしろいのではないのでしょうか。自分の人生は一度

きり、両方したいと思う人がいて当然のような気がします。働く女性にとって安心して子どもを産める社会が大切であり、家庭での理解はもちろん職場側の理解、職場が支える子育てという視点も大切です。

お父さんお母さんを応援

少子化問題には、さまざまな要因が複雑に絡んでいます。その対策として市が担う役割は、産科医療の充実、保育園や児童センター施設の充実など数多くあります。また家庭、地域、企業でも担う役割があります。支援策もさまざまなものが考えられます。市では、これらの支援策が総合的に展開できるよう事業の再構成をし、より効果的な子育て支援を考えていきます。そして、仕事や子育てに頑張るすべてのお父さんお母さんを応援していきます。

子育てを楽しむために

楽しい子育てを実現するために、家庭での家族の役割も大きく影響します。お父さんの育児参加や、三世帯同居世帯でのおじいちゃんおばあちゃんの家事育児への協力など、こういった環境や社会づくりが大切になってきます。育児だけでは

なく家事も含めて、女性に負担が集中するという状況をなくしていくことが、楽しい子育てにつながると思います。これが少子化対策の近道であり、誰もがすぐに実行できる少子化対策になります。少子化からの脱出の鍵は、お父さんお母さんが、「いかに子育てを楽しむことができるか」、ではないでしょうか。

少子化対策の意見を募集

市の事業も、常にお父さんお母さんの目線から見た事業展開が必要とされています。このため、少子化対策指針策定に向けて市民の皆さんの意見を募集しています。

現在、指針を策定するための素案を整理しました。素案は市のホームページで公開しているほか、地域、子育て団体、産業団体など各界各層の皆さんと、話し合いの場を開催する予定です。また資料提供や、会議などにお呼びいただければ説明に伺いますので、ご要望の方はお気軽にご連絡ください。少子化にかかると意見もお待ちしています。

☐問い合わせ 少子化対策推進室
26-2111 (内線 228・229)
☎ 25-6150
☐info@city.ana.gifu.jp